

宮本鉄工建設株式会社
2023年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年6月～2024年5月)



作成日： 2024年10月3日

環境経営方針

<環境理念>

宮本鉄工建設株式会社は、地球環境の永年の保全が人類共通の重要であり緊急的な課題の一つであることを認識し、全社をあげて環境負荷の低減および環境意識の向上に努力します。

- 1 当社の事業活動、製品に関わる環境影響を常に認識し、自主的・積極的に環境への取組と周知徹底を図ることにより継続的な環境負荷の削減を図ります。
- 2 当社の事業活動、製品に関わる環境関連の法令、徳島県条例、阿南市条例、その他を遵守します。
- 3 当社の事業活動、製品に関わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - ① 総エネルギー使用量の削減し二酸化炭素排出量の削減に努めます
(事務所電力、現場仮設電力、営業車、重機燃料、その他化石燃料)
 - ② 一般廃棄物の削減及び産業廃棄物リサイクル率の向上
(事務所一般廃棄物、現場建設廃棄物)
 - ③ 水資源使用量の削減
(事務所水道水、現場仮設水道)
 - ④ 化学物質使用量の削減に努めます
(シンナー、塗料、接着材、コーキング剤など)
 - ⑤ グリーン用品の積極購入に努めます
(事務所事務用品・設備機器、資材原材料など自社がエコになる活動)
 - ⑥ エコロジーでエコノミーな商品を提案します
(エコ住宅、エコオフィス、緑化、ヒートアイランドなど施工主、お客様がエコになる活動)
 - ⑦ 地域清掃活動や事務所廻りの清掃等社会貢献をします
(会社周辺・河川・公園など地域清掃、学校との協働、イベント参加など)

4 この環境経営方針は全社員に周知徹底し、外部の方へもレポートで周知徹底します。

制定日：2009年8月17日

改定日：2018年7月7日

代表取締役 宮本 敏光

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

宮本鉄工建設株式会社

代表取締役社長 宮本 敏光

(2) 所在地

本社 徳島県阿南市那賀川町赤池326番地1

資材倉庫 徳島県阿南市那賀川町赤池326

資材置場 徳島県阿南市那賀川町上福井

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 環境責任者 村上 修二 TEL : 0884-42-0505

担当者 西田 知佳 TEL : 0884-42-0505

(4) 事業内容

土木・建築の設計施工 鋼構造物の設計施工

(建築、土木、鋼構造物)

(5) 事業の規模

製品出荷額 7.8億円

主要工事件数 35件

	本社	資材倉庫	資材置場	現場
従業員	17名			(14名)
延べ床面積	342㎡	1371㎡	1933㎡	35箇所

(6) 事業年度 6月～5月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 宮本鉄工建設株式会社

本社

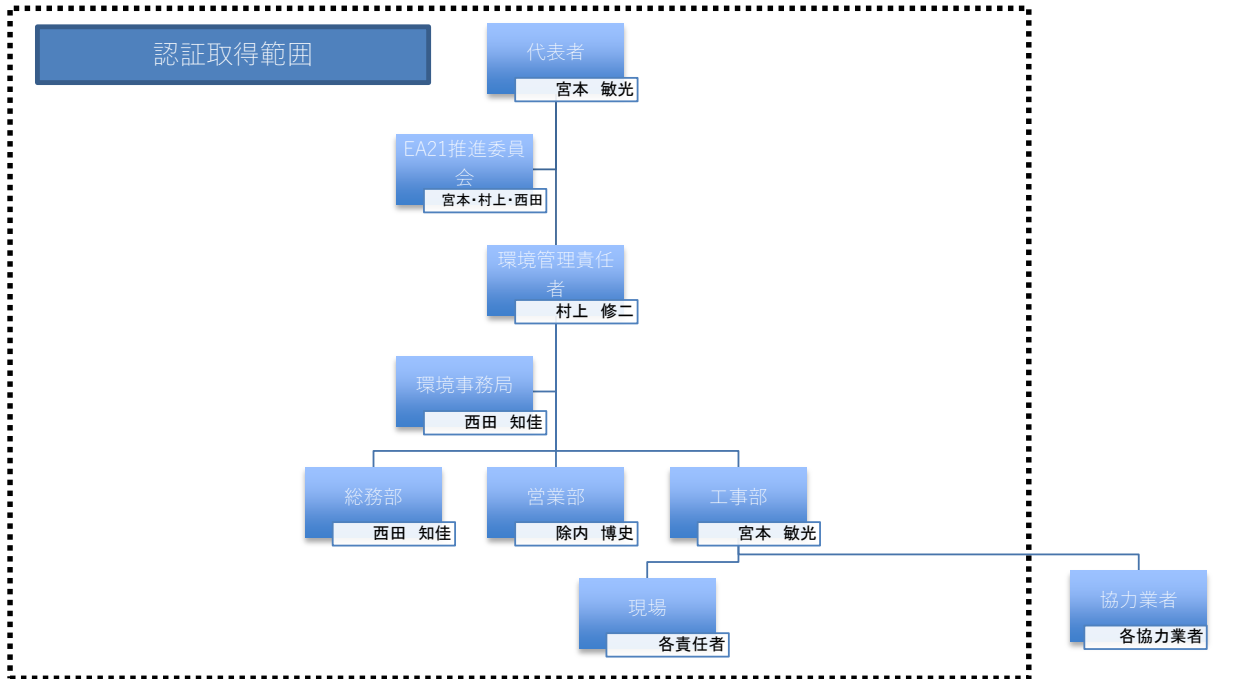
資材倉庫

資材置き場

活動： 土木・建築・鋼構造物工事業

全組織・全活動を対象とする

実施体制図及び役割・責任・権限表



役割・責任・権限	
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認、遵守評価の実施 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長 （現場責任者）	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

【全社】

項目	単位	2018年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	44,058	58,632	61,712
廃棄物排出量				
一般廃棄物量排出量	トン	0.16	0.14	0.14
産業廃棄物リサイクル率	%	100	100	100
産業廃棄物総排出量	トン		889.44	31.32
総排水量	m ³	54	50	48
化学物質（事務所現場毎）	調査回数	1	1	1

(注) 電力の二酸化炭素排出係数： 2018年度は 0.485 k g -CO₂/ k Whを採用して計算

(注) 電力の二酸化炭素排出係数： 2019年度以降は 0.528 k g -CO₂/ k Whを採用して計算

【事務所】

項目	単位	2018年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	27,471	30,053	33,133
二酸化炭素排出係数	0.528			
廃棄物排出量				
一般廃棄物量排出量	トン	0.16	0.136	0.136
産業廃棄物リサイクル率	%			
産業廃棄物総排出量	トン			
総排水量	m ³	54	50	50
化学物質	調査回数	0	1	1

【現場】

項目	単位	2018年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	16,587	28,579	28,579
二酸化炭素排出係数	0.528			
廃棄物排出量				
一般廃棄物量排出量	トン	0	0.005	0.005
産業廃棄物リサイクル率	%	100	100	100
産業廃棄物総排出量	トン		889.44	31.32
総排水量	m ³	0	0	0
化学物質	調査回数	1	1	1

□環境経営目標・実績

【全社】

項目		年度	基準値	2023年		2024年	2025年	2026年
			(基準度)	上段：通年 中段：期初より11月まで (目標)	(実績)	(目標)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量 削減	kg-CO2		15,624	14,842	12,291	14,686	14,530	14,374
CO2換算係数0.528	基準年比		(2018年)	95%	121%	94%	93%	92%
ガソリン・軽油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2		28,434	27,012	49,420	26,728	26,444	26,159
	基準年比		(2018年)	95%	55%	94%	93%	92%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		44,058	41,855	61,712	41,414	40,973	40,533
一般廃棄物の削減	kg		157	149	141	147	146	144
	基準年比		(2018年)	95%	106%	94%	93%	92%
産業廃棄物のリサイクル率	%		100	100	100			
	基準年比		(2018年)	100%	100%	100%	100%	100%
節水	m ³		54	51	48	51	50	50
	基準年比		(2018年)	95%	107%	94%	93%	92%
P R T R 物質使用量 点検・保管	調査回数		1回/年	1	1	1	1	1
	基準年比		(2018年)	100%	100%	100%	100%	100%
製品・サービスへの 環境配慮	件		2	8	3	4	4	4

※実績の%値は、目標達成率である

【事務所】

項目		年度	基準値	2023年		2024年	2025年	2026年
			(基準度)	上段：通年 中段：期初より11月まで (目標)	(実績)	(目標)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量 削減	kg-CO2		15,361	14,593	12,291	14,439	14,286	14,132
CO2換算係数0.528	基準年比		(2018年)	95%	119%	94%	93%	92%
ガソリンの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO2		12,110	11,505	20,841	11,383	11,262	11,141
	基準年比		(2018年)	95%	55%	94%	93%	92%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		27,471	26,097	33,133	25,823	25,548	25,273
一般廃棄物の削減	kg		154	146	136	145	143	142
	基準年比		(2018年)	95%	108%	94%	93%	92%
節水	m ³		54	51	50	51	50	50
	基準年比		(2018年)	95%	103%	94%	93%	92%
P R T R 物質使用量 点検・保管	調査回数		1回/年	1	1	1	1	1
	基準年比		(2018年)	100%	100%	100%	100%	100%
製品・サービスへの 環境配慮	件		1	6	1	2	2	2

【現場】

項目		年度	基準値	2023年		2024年	2025年	2026年
			(基準値)	上段：通年 中段：期初より11月まで (目標)	(実績)	(目標)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量 削減 CO2換算係数0.528	kg-CO2		263	250	0	247	245	242
	基準年比	(2018年)		125 95%	0 0%	94%	93%	92%
ガソリン・軽油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2		16,324	15,508	28,579	15,345	15,181	15,018
	基準年比	(2018年)		7,754 95%	12,051 54%	94%	93%	92%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		16,587	15,758	28,579	15,592	15,426	15,260
一般廃棄物の削減	kg		3	3	5	3	3	3
	基準年比	(2018年)		1.4 95%	3.0 57%	94%	93%	92%
産業廃棄物のリサイクル率	%		100	100	-			
	基準年比	(2018年)		100 100%	100 100%	100%	100%	100%
節水	m ³		0	0	0	0	0	0
	基準年比	(2018年)		0 0%	0 0%	0%	0%	0%
P R T R物質使用量 点検・保管	調査回数		1回/年	1	1	1	1	1
	基準年比	(2018年)		100%	100%	100%	100%	100%
製品・サービスへの 環境配慮	件		1	2	2	2	2	2

※実績の％値は、目標達成率である

・現場は遠隔地の現場だったため、ガソリン・軽油の二酸化炭素排出量削減の目標を達成することができなかったが、その他の項目は目標を達成することができた。

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容①

【事務所】

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	継続/変更	評価と次年度の取組み内容
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標		<input checked="" type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・事務室、工場などの照明は、不必要な時は消灯している	○	継続	目標を達成できたことについては評価できない。今後はオンデマンド契約等の電気そのもの見直しに入っていきたい。
・空調の適温化（冷房28℃程度、暖房20℃程度）を徹底している	○	継続	
・使用していない部屋の空調を停止している	○	継続	
・クールビズ/ウォームビズと服装の工夫をして、冷暖房の使用を抑えている	○	継続	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標		<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input checked="" type="checkbox"/> 基準見直し	
・定期的自主点検および施工開始時点検を実施する	○	継続	数値目標は達成できなかったが、取組自体は良好に進んでいる。
・無駄や無理のない運転を行う	○	継続	
・低燃費車両への入れ替え	○	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標		<input checked="" type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・分別の徹底	○	継続	分別の次のステップとして、印刷の必要・不必要といった分別へと進んでいきたい。
・裏紙の使用	○	継続	
・書類の電子化	○	継続	
産業廃棄物のリサイクル率の向上			
数値目標		<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・分別コンテナ（ボックス）の設置	○	継続	良好に進んでいる。
・工事現場での分別の徹底	○	継続	
・リサイクル可能な処理業者への委託	○	継続	
節水			
数値目標		<input checked="" type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・作業車両の洗車回数を減らす	○	継続	機器の入れ替え等によって次年度への期待ができる。
・蛇口に節水等の標示を行い節水活動を励行する	○	継続	
製品・サービスへの環境配慮			
・建築物・工作物等の長寿命化を指向する	○	継続	経済と環境両面から進めて、より普及できるよう努めていきたい。
・エネルギーの削減と省資源化を提案する	○	継続	
・省エネ関連商品の推奨を行う	○	継続	
環境教育			
・環境経営方針・経営目標・経営計画の周知	○	継続	良好に進んでいる。
・環境経営目標・環境活動進捗状況確認・評価	○	継続	

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容②

【現場】

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	継続/変更	評価と次年度の取り組み内容
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標		<input checked="" type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・使用していない部屋の空調を停止している	○	継続	目標を大きく達成できたことについては評価できる。より一層の削減に努めたい。
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標		<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input checked="" type="checkbox"/> 基準見直し	
・定期的自主点検および施工開始時点検を実施する	○	継続	取組そのものは順調ではあるが、目標値には大きく届かなかった。 次年度は取組は継続しながらも単位あたりの使用量についても導入を検討する。
・無駄や無理のない運転を行う	○	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標		<input checked="" type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・分別の徹底	○	継続	分別の次のステップとして、印刷の必要・不必要といった分別へと進んでいきたい。
・裏紙の使用	○	継続	
・書類の電子化	○	継続	
産業廃棄物のリサイクル率の向上			
数値目標		<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・分別コンテナ（ボックス）の設置	○	継続	良好に進んでいる。
・工事現場での分別の徹底	○	継続	
・リサイクル可能な処理業者への委託	○	継続	
節水			
数値目標		<input checked="" type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し	
・作業車両の洗車回数を減らす	○	継続	良好に進んでいる。
・蛇口に節水等の標示を行い節水活動を励行する	○	継続	
製品・サービスへの環境配慮			
・建築物・工作物等の長寿命化を指向する	○	継続	経済と環境両面から進めて、より普及できるよう努めていきたい。
・エネルギーの削減と省資源化を提案する	○	継続	
・省エネ関連商品の推奨を行う	○	継続	
環境教育			
・資格取得・更新のため研修会参加	○	継続	良好に進んでいる。
・火災対応訓練、地震対応訓練	○	継続	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
阿南市条例	一般ゴミ
廃棄物処理法	コンクリート殻 アスファルト殻
徳島県生活環境保全条例	土砂等の埋め立て等に関する環境保全・アイドリング防止

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘ならびに訴訟等は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

	見直しの有無
環境経営方針	無
環境経営目標・環境経営計画	無
実施体制	無

目標値に対する実績として、去年に続き、自動車用燃料以外の項目では目標値を達成することができた。自動車燃料の削減については目標値を大きく下回った。

自動車燃料使用量が目標より大きく下回った要因としては

- ①人員増に伴う車両の増加（2名増員）
- ②遠方の現場の受注（山間部：那賀郡の仕事量の増加）
- ③受注量の増加（298,000→715,000単位：千円）

上記3点が主な要因となっており、通年して顕著に現れている。受注量の部分では基準年（2018年）の約2.4倍になっているため、移動量も増えるため致し方ないと思われる。

ユニック車やダンプトラックといった車両仕様は不可欠であるが、乗り合わせや小さい車両での移動が可能な場合は乗り換え等を推進し、条件の中で成果を挙げられるよう努めていきたい。

また、定量的に推移を見守るためにも、現場の受注金額・移動距離による割戻しをし、単位あたりのエネルギーの使用量の算出について参考値として採用した。

電力使用量に関しても節電効果が現れ、目標以上の効果が得られた。

水資源については概ね目標値を達成することができた。

提案事項についてはゼロエネルギーハウスの推進していきたい。

また、自社の設備等の老朽化に伴う設備の入れ替えについては順調に推移している。

今年度も設備の入れ替え時には環境配慮型を検討していきたい。

□環境活動の紹介

環境にもお財布にも優しい住宅・土木構造物・鋼構造物作りを目指しております

詳しくは <http://www.miyahome.co.jp/>まで